（別紙4）　　平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3671500340		
法人名	医療法人　清樹会		
事業所名	グループホーム樹園		
所在地	徳島県板野郡藍住町奥野字猪熊91-4		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成28年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム樹園では入居者が家庭的な雰囲気のもと快適に生活できるよう支援している。具体的にはADL、IADL低下防止の為、できる事は積極的に行って頂き、少々時間がかかっても見守り、声かけを行いながらサポートをしている。また、居室に閉じ籠もり孤独にならないよう声かけし、他の入居者・家族・職員とのコミュニケーションを促進するよう環境を整えている。当施設から200mの場所に清水内科があり医療連携体制をとり24時間対応可能になっている。必要に応じて看取り介護も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所では、気候の良い日には利用者と職員で日光浴を楽しんでいる。また、日頃から近隣を散歩したり、買い物や外食に出かけたりしている。利用者の知人や友人を快く受け入れており、関係を継続することができるよう支援している。地域の住民から野菜を差し入れてもらうこともある。協力医療機関の医師の協力を得て、24時間の医療連携体制を整備している。音楽療法も積極的に取り入れている。全職員で利用者一人ひとりの心身状況に配慮しつつ、排泄の自立に向けた支援に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　樹園1 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和やかな笑顔、愛情のこもった言葉で話すと言う「和顔愛語」を理念とし、地域の中で和みのある生活が送れるよう支援する。ミーティング等で再確認、周知徹底を行い実践に繋げている。	事業所では、開設当初から掲げている理念“和顔愛語”を大切にしており、“和やかな笑顔・愛情のこもった言葉で話す・地域全体で支えることができるよう働きかけ和みある生活を支援する”と具体的に示し、職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として一斉清掃の参加や、幼稚園のクリスマス会にご招待を受けている。又、中学校の職場体験学習の受け入れ実施や施設行事にボランティアをお招きし交流を図っている。	事業所では、地域の行事に出向いたり、教育機関と交流したりしている。また、地域の方の来訪も多く快く受け入れている。近隣の住民が農作物を届けてくれることもあり、相互に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を随時受ける準備をしており認知症介護の理解を深めて頂けるよう職員一同努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、経過報告や予定の他、職員研修の発表等を行い、サービスの向上に活かせるよう、参加者から意見や情報交換の場として取り組んでいる。地域の行事等もご紹介して頂いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域の代表者、地域包括センター職員、同一法人職員等の出席を得ている。事業所の行事や利用者の暮らしぶり、研修等の報告を行っているが、出された意見や助言を職員間で話し合ったうえで企画・検討を十分に行うまでには至っていない。	運営推進会議の目的や役割を職員間で話し合い、助言や意見を得ることができるよう、協議内容の充実を図るとともに、それに応じて出席者を工夫するなどの運営推進会議を活かした取り組みに着手されるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居者状況を提出し、事業所の取り組みを報告したり、相談を行っている。	職員は町担当窓口に出向くなどして、利用実績の報告を行いつつ、事業者の取り組みや利用者の暮らしぶりを伝えるようにしている。疑問点や課題等があれば電話で助言を得るようにしている。知り得た情報は、同一法人の運営する他のグループホームにも伝達し、情報を共有するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、禁止規定の理解を深め周知徹底を行っている。法人内においても身体拘束、虐待に関する勉強会を開いている。	2か月に1回、事業所では身体拘束委員会を開催している。また、職員が身体拘束の内容や弊害について理解することができるよう研修会や勉強会の機会を設けている。利用者の心身状況が不安定な際などには、家族や町担当者とも連絡をとりあい、一部の出入り口を時間帯を定めて施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	開催セミナーや勉強会での参加を促し、参加職員から書面やミーティング等で報告し合い、高齢者虐待防止について職員全員が理解できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、「成年後見制度」を利用されている入居者の方が2名。定期的に勉強会を行い職員全員が理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項ッ説明書・契約書を説明し、ご本人、ご家族の生活面での不安や希望、要望を伺い、事業所としてどう対応しているかを十分に説明し、同意が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族様から要望や意見をお聞きする時間を設けたり玄関先にもご意見箱を設置し、意見が出やすい環境作りにしている。運営推進会議や年2回開催予定の家族会に、今後出た意見等を反映できるよう努める。	職員は、家族の来訪時に、積極的に利用者の生活の様子等を伝えるとともに、意向や希望を聞くようにしている。出された意見や思いは真摯に受け止め、職員間で検討したうえで運営面に反映することができるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常の中で出た意見や提案について、代表者へ報告すると共に、年2回アンケートを実施し運営に反映させている。	管理者は、日頃のケアのなかで、職員の意見や提案を聞くようにしている。事業所では、職員にアンケートを行っており、出された意見を代表者に伝えることで勤務体制や職場環境等の向上へと繋げる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加への意欲や努力に対する評価を行い、各自が向上心を持って働けるように職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修においては積極的な参加を促している。参加出来なくてもレジメを用い学んだことを共有している。現場においてはルーチンワーク表を作成し、新人が業務を理解できるよう配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の講習会に参加し、同業者とのコミュニケーション、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と面談する中で、生活状況の希望や不安等を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過や不安に主ている事をお聴きし、それを理解し受け止めるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いや希望を確認し、改善に向けた対応を話し合いの中で必要なサービスにつなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を共に過ごす中で、様々な思いを理解できるよう努力し、本人の表情や言葉・行動等から気付きを学び関わりの中で安心できる関係を築きあげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の暮らしの様子や出来事等の情報を共有すると共に、本人の状況をその都度伝えることで、一緒に支えているという関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、知人に会ったり、また知人や友人の方が来園されたりと交流が出来ている。今後も交流が継続できるよう働きかけている。	事業所では、利用者の友人や知人の来訪を受け入れており、一人ひとりが馴染みの関係を継続することができるよう支援している。また、家族の協力を得るなどして、外泊やお墓参り、理・美容院等への外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、入居者様同士が楽しく過ごせる時間を提供出来るよう、職員が働きかけている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の近況をお聴きしたり、通院されている方等その場でお声かけをしている。施設に訪れて来られた場合もしっかり話を聞き心のケアに努めている。（グリーフケア）。転院された方においては病院と連携し近況を聞いたり面会をしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉かけを通じ、把握に努めている。また、意思疎通が困難な方については、家族様とのコミュニケーションや本人様表情、言葉行動の中から希望や意向の把握に努めている。	職員は、日ごろの利用者との関わりを通じて、暮らし方の意向や希望を把握するよう努めている。意志の表出が困難な方には、動作や些細な表情の変化等から真意を推し測って、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、前任のケアマネ等、関係者から話を伺う。また自宅に訪問する事もある。面会時には出来る限りお会いし、家族様が県外や遠方の場合は電話で伺い情報を得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った過ごし方や生活リズムを把握すると共に出来ることを見いだすよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日々の関わりの中で、意見や要望をお聴きしている。ご意見、職員の気付きを基に意見を出し合い介護計画に取り入れている。	毎月、事業所ではモニタリングを行っている。また、3か月に1回、介護計画書を見直している。職員は、利用者や家族の思いや希望を把握し、関係者の気づきやアイデアを取り入れるなどして、介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やチェック表を用いて一日の過ごし方や食事量、排泄の有無等を記録し共有している。この記録を基に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に十分に応えられるように柔軟に対応している。（外出、外泊、受診）		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、消防、民生委員、老人会、他の事業所等の協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により、かかりつけ医がいる。緊急時にも対応できるよう日頃より連携を取っている。受診や通院については家族と連携を図りながら、場合によっては職員が代行、同行している。	事業所では、本人や家族と話し合うなどして、協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。家族の協力を得るなどして、専門科の受診を支援している。受診結果は、速やかに共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師・医療機関と情報を密に取れる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、医療機関、地域連携室と情報交換や相談に勤めながら連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合については、よく話し合い同意書をもらっている。また状態の変化に応じ、家族の意思や意向を確認しながら、かかりつけ医や職員がチームとして支援に取り組んでいる。	事業所では、看取りに関する指針等を作成している。契約時に、重度化や終末期の支援方針を本人や家族に伝えている。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族の意向を再確認している。協力医療機関の協力を得るなどして、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応はマニュアルに沿って行うよう統一している。また定期的に救急救命講習を実施し、全職員が蘇生法や応急手当てが身に付くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間想定を決め全職員が避難方法が身に付くよう訓練を行っている。当施設においては年二回避難訓練・消火訓練を実施している。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。出火の時間や場所の想定を工夫するなどして、訓練が実践的なものとなるようにしている。事業所では、浸水被害に関する対策や準備も行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価　樹園1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を重視し、介護が必要な時もその方法言葉かけに対し話し合いを行い注意を払っている。又、居室への出入りに関してもプライバシー配慮を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの気持ちやプライバシーに配慮し、さりげない声かけや介助を心がけている。また、生活日課などは本人が選択するようにしており、その人らしい生活の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、言葉かけを行い、願いや希望を表せるよう働きかけている。難聴の方には耳元で聞き取りやすいような声かけを行う。場合によってはホワイトボードを用いて筆談を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に考え、その日の状況や体調に合わせ柔軟に個別の支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を大切にし、可能な方は衣服を選んで頂いている。困難な方は家族に準備して頂いた衣類で身だしなみを心がけている。また、定期的な美容サービスの受け入れや行きつけの美容院の利用を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その都度、食事内容はホワイトボードに明記している。配膳の一部、片づけや食器洗い等は利用者にも役割を担って頂いている。	利用者と職員で、配膳や後片付けを行っている。職員は、利用者が調理風景を見たり、料理をしながら話しをしたりすることも、食事を楽しむことの一貫と捉えて支援しており、食への関心を引き出すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記録し、入居者の食べ物や飲み物の習慣や力量など様子を見ながら栄養摂取が出来るよう支援している。ペースト食や刻み食などで対応李もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた言葉かけや介助により、歯磨きや義歯の洗浄している。うがいの出来ない方はガーゼを使用し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。可能な限り布パンツを使用して頂き、トイレでの排泄が行えるよう努めている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄の自立やトイレでの排泄を支援している。また、本人の心身の状況によっては、パットを活用するなどの検討も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し食生活の見直しや水分量・運動に注意しながら対応している。排泄困難な方は医師に相談し服薬や下剤・浣腸で対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	言葉かけを行い、希望に合わせて入浴して頂いている。見守りや入浴支援の方は羞恥心や負担等を考慮し、楽しみながら入浴できるよう支援を行っている。	事業所では、少なくとも週3回は入浴することができるよう支援している。同性介助を原則とし、利用者の心情や尊厳に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間よく眠れるよう、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。 又、本人の意向に応じ、昼間の休憩も個々に取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々に整理し、内容を理解できるようにしている。服薬支援の方には、誤嚥防止のため、白湯をゼリー状にしたものと一緒に服用していただいたり、前後の服薬確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、食器の片づけ、洗い物等一人ひとりに合った役割を分担している。またカラオケやDVD鑑賞、縫物で楽しみ事の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、買物など、家族の同意と協力の基、支援を行っている。又、本人の意思や体調を考慮しながら戸外へ出かけられるよう支援に努めている。	気候の良い日には、利用者と職員で近隣へ散歩に出かけたり、事業所内の庭で日光浴を楽しんだりしている。職員は、一人ひとりの希望に応じて、移動パン屋での買い物や外食等に出かけている。また、お弁当やおやつを持参して季節の花見に出かけることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価　樹園1 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はしていないが、買出し金として管理しており、買物時には利用者様本人が支払いを出来るように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出がある場合は電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には造花を設置。館内はテレビや新聞等をご用意し、温度・湿度・換気はこまめに調節を行っている。トイレは清潔第一を心掛けこまめな清掃を行い快適・安全に使用できるよう努めている。	共用空間は広々と日当たりが良く、居心地良く過ごすことのできる空間となっている。また、清掃が行き届いている。生け花や季節の飾り付けも行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブル、椅子を設置しており、1人で過ごせるスペースや、気の合う仲間同士で思い思いにくつろげる空間作り居している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や小物、写真を持ち込まれ使用されています。	事業所では、利用者や家族と相談し、使い慣れた寝具やテレビ、写真、思い出の品を居室に持ち込んでもらっている。また、趣味の琴などを傍らに置くなど、その人らしく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、車椅子使用の方の目線に合わせた写真を飾り、一人ひとりの表札には異なる花が取りつけられ、間違えて入る等の混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　樹園②	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和やかな笑顔、愛情のこもった言葉で話すと言う「和顔愛語」を理念とし、地域の中で和みのある生活が送れるよう支援する。ミーティング等で再確認、周知徹底を行い実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として一斉清掃の参加や、幼稚園のクリスマス会にご招待を受けている。又、中学校の職場体験学習の受け入れ実施や施設行事にボランティアをお招きし交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談を随時受ける準備をしており、認知症介護の理解を深めて頂けるよう職員一同努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、経過報告や行事予定の職員研修の発表等を行い、サービスの向上に活かせるよう、参加者から意見や情報交換の場として取り組んでいる。地域の行事等もご紹介して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居者状況を提出し、事業所の取り組みを報告したり、相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、禁止規定の理解を深め周知徹底を行っている。法人内においても身体拘束、虐待に関する勉強会を開いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	開催セミナーや勉強会での参加を促し、参加職員から書面やミーティング等で報告し合い、高齢者虐待防止について職員全員が理解できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園②	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、「成年後見制度」を利用されている入居者の方が2名。定期的に勉強会を行い職員全員が理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書を説明し、利用者、家族の生活面での不安や希望、要望を伺い、事業所としてどう対応しているかを十分に説明し、同意が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族から要望や意見をお聞きする時間を設けたり、玄関先にもご意見箱を設置し、意見が出やすい環境作りにしている。運営推進会議や年2回開催の家族会で出た意見等を反映できるよう努める。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常の中で出た意見や提案について、代表者へ報告すると共に、年2回アンケートを実施し運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加への意欲や努力に対する評価を行い、各自が向上心を持って働けるように職場環境作りに努めている。又、資格取得に対しての評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修においては積極的な参加を促している。参加出来なくても資料を用い学んだことを共有している。現場においてはルーチンワーク表を作成し、新人が業務を理解できるよう配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の講習会やグループホーム協会の研究会に参加し、同業者とのコミュニケーション、ネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園② 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と面談する中で、生活状況の希望や不安等を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過や不安に思っている事をお聴きし、それを理解し受け止めるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや希望を確認し、改善に向けた対応を話し合いの中で必要なサービスにつなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を共に過ごす中で、様々な思いを理解できるよう努力している。、本人の表情や言葉・行動等から気付きを学び関わりの中で安心できる関係を築きあげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の暮らしの様子や出来事等の情報を共有すると共に、本人の状況をその都度伝えることで、一緒に支えているという関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、知人に会ったり、また知人や友人の方が来園されたりと交流が出来ている。今後も交流が継続できるよう働きかけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、入居者様同士が楽しく過ごせる時間を提供出来るよう、職員が働きかけている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園② 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の近況をお聴きしたり、通院されている方は、その場でお声かけをしている。施設を訪れた場合もしっかり話を聞き、心のケアに努めている。（グリーフケア）。転院された方は、病院と連携し近況を聞いたり面会をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉かけを通じ、把握に努めている。また、意思疎通が困難な方については、家族とのコミュニケーションや本人の表情、言葉行動の中から希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、前任のケアマネ等、関係者から話を伺う。また自宅に訪問する事もある。面会時には出来る限りお会いし、家族が県外や遠方の場合は電話で伺い、情報を得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った過ごし方や生活リズムを把握すると共に、出来ることを見いだすよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日々の関わりの中で、意見や要望をお聴きしている。ご意見、職員の気付きを基に意見を出し合い介護計画に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やチェック表を用いて一日の過ごし方や食事量、排泄の有無等を記録し共有している。この記録を基に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に十分に応えられるように柔軟に対応している。（外出、外泊、受診）		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園②	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、消防、民生委員、老人会、他の事業所等の協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により、かかりつけ医がいる。緊急時にも対応できるよう日頃より連携を取っている。受診や通院については家族と連携を図りながら、場合によっては職員が代行、同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師・医療機関と情報を密に取れる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、医療機関、地域連携室と情報交換や相談し連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合については、よく話し合い同意書をもらっている。また状態の変化に応じ、家族の意思や意向を確認しながら、かかりつけ医や職員がチームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応はマニュアルに沿って行うよう統一している。また定期的に救急救命講習を実施し、全職員が蘇生法や応急手当てが身に付くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間想定を決め全職員が避難方法が身に付くよう訓練を行っている。当施設においては年二回避難訓練・消火訓練を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園②	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を重視し、介護が必要な時もその方法言葉かけに対し話し合いを行い注意を払っている。又、居室への出入りに関してもプライバシー配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、言葉かけを行い、願いや希望を表せるよう働きかけている。難聴の方には耳元で聞き取りやすいような声かけを行う。場合によってはホワイトボードを用いて筆談を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に考え、その日の状況や体調に合わせ柔軟に個別の支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を大切にし、可能な方は衣服を選んで頂いている。困難な方は家族に準備して頂いた衣類で身だしなみを心がけている。また、定期的な美容サービスの受け入れや行きつけの美容院の利用を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その都度、食事内容はホワイトボードに明記している。配膳の一部、片づけや食器洗い等は利用者にも役割を担って頂いている。昼食時は職員も一緒に食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記録し、入居者の食べ物や飲み物の習慣や力量など様子を見ながら栄養摂取が出来るよう支援している。ペースト食や刻み食などで対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた言葉かけや介助により、歯磨きや義歯の洗浄している。うがいの出来ない方はガーゼを使用し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園②	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。可能な限り布パンツを使用して頂き、トイレでの排泄が行えるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し食生活の見直しや水分量・運動に注意しながら対応している。定期的に声かけ、誘導を行う。排泄困難な方は医師に相談し服薬や下剤・浣腸で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	言葉かけを行い、希望に合わせて入浴して頂いている。見守りや入浴支援の方は羞恥心や負担等を考慮し、楽しみながら入浴できるよう支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間よく眠れるよう、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。 又、本人の意向に応じ、昼間の休憩も個々に取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々に整理し、内容を理解できるようにしている。服薬支援の方には、服用しているか確認し飲み忘れが無いように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、食器の片づけ、洗い物等一人ひとりに合った役割を分担している。またカラオケやDVD鑑賞、縫物で楽しみ事の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外泊、買物など、家族の同意と協力の基、支援を行っている。又、本人の意思や体調を考慮しながら戸外へ出かけられるよう支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　樹園② 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はしていないが、買出し金として管理しており、買物時には利用者様本人が支払いを出来るように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出がある場合は、電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には造花を設置。館内はテレビや新聞等をご用意し、温度・湿度・換気はこまめに調節を行っている。トイレは清潔第一を心掛けこまめな清掃を行い快適・安全に使用できるよう努めている。又、広い庭があり、天候の良い日は庭で昼食やおやつを食べている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブル、椅子、ソファーを設置しており、１人で過ごせるスペースや、気の合う仲間同士で思い思いにくつろげる空間作り居している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や小物、写真を持ち込まれ使用されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、車椅子使用の方の目線に合わせた写真を飾り、一人ひとりの表札には異なる花が取りつけられ、間違えて入る等の混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		